

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)

群馬県前橋市元総社町七三―五

TEL 027・2555・3434

FAX 027・2555・3435

http://www.neues-asahi.jp

様々な催しや行事が規模を小さくしたり、コロナ感染対策の工夫をしながら再開されています。小中学校の行事なども普通に行われ、大学生なども対面授業が復活しているようです。通常生活はこんなに忙しかったのか…と二年間のおうち生活が日常になってしまった心と身体は、新年度の忙しさと相まって少し疲れ気味です。さて、これから過酷な夏の季節を迎えるにはどうしたらいいでしょう。

ノイエスにいらつしやる作家やお客様と一日中お話ししていると、机に向かって一日中パソコンをにらんで手先を動かしている仕事とは違い、心地よい疲労が訪れます。そして夜はよく眠れて翌日にはすっきりし、身体も軽やかになります。個展開催中の作家たちが毎日毎日たくさんの方をお迎えしてお話して、生き生きと見えているのと近いかもしれないと思っています。それは、最近はやりのサウナで心身が「ととのう(整う)」という感覚に似ているのかもしれませんが。「ととのった」というのは、サウナと水風呂を繰り返した後の状態や、マラソンでいうランナーズハイのように、トランス状態後に疲れているようです。つきりする現象のことだそう。人はコミュニケーションによっても心身のエネルギーを発散したり受け取ったりしているのだと感じます。コミュニケーションがうまくいかない時はきつとマイナスに疲れてしまうのですが、うまくいったコミュニケーション、知識の交換などが続いた時は気分も爽快です。アート、書物、音楽、動物：様々なメディア(媒体)を通してのコミュニケーション⇨意思疎通/伝達があると思いますが、そういった心や思考の行き来が行われることは、「身体を適度に動かしましょう」といった身体の体操を奨励するのと同じくらい、人の健康には欠かせないことなのでしょう。

ノイエスでは木村明さんの展覧会が始まります。私がノイエスで働き始めて二つ目の展覧会が木村さんの個展でした。それまで抱いていた「ガラスは繊細で儂い」というイメージをいい意味で覆してくれた感動は今も忘れません。手に持った時の重さ、雨の後の空気の透明感のような曇りのなさ、つるんと口当たりが柔らかく感じる厚み。作家の作品を手にとって使うという喜びを知ったのも木村さんの作品からでした。

「ととのう」方法は人それぞれかもしれませんが、私にとっては木村さんのガラスで何かを飲むということは優雅なリセット、リチャージタイムであり、そんなことをお客さまとノイエスで分かち合う会話が私の心身が「ととのう」ためのコミュニケーションです。

(橋本)

ノイエス朝日(展覧会)のご案内

マスク着用と手指の消毒は引き続きお願いいたします。

ガラスとタピストリー展 <企画>

木村明のガラスの花器、食器と

故 木村泉のタピストリー

会期 六月十一日(土)～十九日(日)

午前十時～午後五時

(最終日は午後四時終了)

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

作家在廊予定 期間中午後一時～

木村明さんのガラス作品と、二〇〇〇年に亡くなった泉さんのタピストリー作品を同時展示いたします。時を経ても魅力的な泉さんの作品の形と色は、明さんのガラス作品と好相性です。期間限定の特別な空間をお楽しみください。

小松健一作品展 <企画>

琉球 OKINAWA 沖縄本土復帰50年

会期 六月二十五日(土)～七月三日(日)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

※ギャラリートーク(作家在廊)

六月二十五日(土)、二十六日(日)、七月二日(土)

十四時～十五時

沖縄本土復帰50年を機に、五月に沖縄の那覇と名護で開催した写真展に続く展示です。小松健一氏が40年にわたり見つけ続けた沖縄の美しい風土、民俗文化、戦争の傷痕、基地の中の暮らしの写真の数々です。

小松健一写真集『琉球 OKINAWA』(株)本の泉社

B5判上製 二四八頁 六三六四円十税

石川薫記念地域文化賞受賞者特別講座

主催 一般財団法人群馬地域文化振興会

一般財団法人群馬地域文化振興会(会長 茂原璋男)では、石川薫記念地域文化賞の受賞者による特別講座を定期的に行っています。この賞は、朝日印刷工業株式会社の創業者・石川薫翁の地域文化振興の理念を継承し、毎年、学術的貢献をされた研究者へ贈られています。

特別講座は、受賞者から直接、その研究成果をうかがうもので、学術情報の公開と普及を目的としています。今回の講演は、昨年新型コロナウイルスの影響で中止となったものです。感染防止対策を取りながらの開催となります。検温、手指の消毒等ご協力をお願いいたします。

演題 「組合製糸群馬社の盛衰」

講師 宮崎俊弥氏(第21回研究賞受賞者)

みやざきとしや

経歴 昭和21年(一九四六)、群馬県中之条町に生まれる。東京教育大学文学部史学科(日本史)卒業後、同大学院農学研究所(農村社会学)修了。

県立高校の教員などを経て、平成11年(一九九九)より平成25年まで、助教授・教授・客員教授として共愛学園前橋国際大学に勤務。

現在、同大学名誉教授。桐生文化史談会会長。専攻は日本近代史。著書に、『群馬県農業史上・下』(みやま文庫)、『近代群馬のキリスト教教育』(上毛新聞社)など。

日時 令和四年六月二十一日(火)

午後一時三十分～

会場 ノイエス朝日

費用 参加費五〇〇円

申込 事前申し込み

ノイエス朝日(TEL027・2555・3434)

受付期間 5/28(土)～6/5(日) 藤森カツジ展

6/11(土)～6/19(日) ガラスとタピストリー展

午前10時～午後5時

定員 30名(先着順)とさせていただきます

一般財団法人群馬地域文化振興会

担当 事務局長 松田 猛

TEL027・226・6246(群馬県立文書館内)